

〔引用文献〕 1) Bangkok Post (1998 a) Forests under Fire, 26 March 2) Bangkok Post (1998 b) Forests under Fire, 27 March 3) CONKLIN, H.C. (1957) Hanunoo Agriculture — An Example of Shifting Cultivation in the Philippines, UNASYLVA, VOL.11, No. 4, FAO 4) KASHIO, M. (1996) Sustainable Forest Management in Asia and the Pacific. In : Proceedings of the Regional Expert Consultation on the Implementation of Sustainable Forest Management. FAO/RAP Publication 5) MANARUNGSAN, S. (1989) Economic Development of Thailand, 1850-1950 : Response to the Challenge of the World Economy, Institute of Asian Studies, Chulalongkorn University 6) TOMESIS, F. (1948) Philippine Forests and Forestry. UNASYLVA, VOL. 2, No. 6, FAO 7) 樫尾昌秀 (1998) 東南アジアの森. ゼスト社. 8) 渡辺弘之 (1989) 東南アジアの森林と暮し. 人文書院.

図書紹介.....

◎インドネシアのマングローブ・ハンドブック—バリ・ロンボク—

(KITAMURA, Shozo, *et al.*, ed. : Handbook of Mangroves in Indonesia—Bali & Lombok—Japan International Cooperation Agency (JICA) & International Society for Mangrove Ecosystem (ISME) 刊, 1997, 119 pp.)

本ハンドブックは、国際協力事業団 (JICA) が 1992 年からインドネシア国バリ島、ロンボク島を舞台に、同国林業省と協力して実施しているマングローブ林資源保全開発実証調査計画に参画した専門家が現地スタッフを対象に、マングローブの生態への理解を深めることを目指して編集したものである。そのため、本ハンドブックには、バリ島、ロンボク島で普通にみられるマングローブ樹種とマングローブ林内に分布する海岸植物を中心に 50 種が収録されている。本ハンドブックは、マングローブに興味をもって観察したい人が、容易に検索できるように様々な工夫がこらされている。特に、キーアイコン (イラスト) を使って、主な分布域、樹形、葉、花、果実を視覚的に分類して図示し、現場で容易に樹種判別できるように工夫されている点では出色である。本文の記載は簡潔明瞭で、主要 27 種については、その樹形、花、果実のカラー写真が掲載されているほか、インドネシア各地での地方名、主要樹種の造林方法、専門用語の解説も収録されている。収録されているほとんどの種は東南アジア各地に広く分布しており、樹高、樹形、果実の大きさなどの地域変異を考慮すれば、他の地域でも十分利用できるものである。学名の著者表記に不統一な点が見られるのが残念であるが、これほど完成度の高い印刷物を現地でも編集された著者らに敬意を表したい。本書は市販されていないが、JICA 農林水産業投融資課または沖縄県那覇市琉球大学農学部内 ISME (国際マングローブ生態系協会) から入手可能である。

(森貞和仁)